

No.27 市民1人当たりの都市公園面積

|     |
|-----|
| 達成度 |
| 1   |

|   |
|---|
| 波及効果 意見の内容  |
| 都市の公共空間として整備し利活用の必要がある。   |
| <b>部門評価と同じ</b>  |
| 面積に拘らず、使用目的や活用状況の検討が必要と考えられる。   |
| 高齢化に伴い、地域の公園は子どもではなくお年寄りが使用していることをよく見かけられるようになった。 <b>利用用途の再整備が必要なことは納得します。</b>                  |
| <b>自己評価通り</b>   |
| 都市公園は景観の保全・創造に寄与するほか、市民の健康増進や減災など多面的な効果があると思われる。まちづくり計画に組み込み、事業者を巻き込んだ都市公園の(再)整備に向けた取り組みが期待される。 |

| 点数 | 集約案                               |
|----|-----------------------------------|
| 3  | 少子高齢化が進む現状において、都市公園の再整備を進める必要がある。 |

|  |
|--|
| 効率性 意見の内容  |
| マネージメントの理念で利用の活性化を図る。                                    |
| 部門評価と同じ  |
| <b>面積に拘らず、使用目的や活用状況の検討の上、再設定が望まれる。</b>                   |
| 防災上からも住民の憩いの場の提供は必要。緑地は住民に自然に触れ合える場にもなりうることから再確認する必要がある。 |
| 自己評価通り(費用対効果がわかりづらい)                                     |
| H24年度は、費用投下なしで市民1人当たり都市公園面積の増加がみられた。                     |

| 点数 | 集約案                               |
|----|-----------------------------------|
| 2  | 面積だけに拘らず、地域との調整を図りながら再整備を行う必要がある。 |

|  |
|--|
| 総合評価 意見の内容   |
| 子どもや老人のためだけでなく公共空間として、広く考える必要がある。                                  |
| <b>少子高齢化を踏まえ公園の再整備が必要か。</b>  |
| 状況の変化に対応した目標、施策を再検討する必要があります。                                      |
| <b>面積に拘らず、使用目的や活用状況を検討の上、目標値の再検討が望まれる。</b>                         |
| 旧市街地での防災上の避難地としての緑地は必要。  |
| 大規模公園を含めれば、すでに中期目標も達成されている。再開発等のまちづくりや健康増進策等と連携しながらの地道な取り組みが期待される。 |

| 評価 | 集約案  |
|----|--|
| C  | 少子高齢化が進む現状を踏まえ、面積だけに拘らず、目標値の再検討も含めた見直しが望まれる。 |

No.29

パークアンドライド駐車台数

|     |
|-----|
| 達成度 |
| 1   |

| 波及効果 意見の内容  |
|---|
| 観光客のためだけでなく、住民視点からの意義も考える必要がある。   |
| <b>渋滞対策のみならず、エネルギー問題を含め地球温暖化対策にも効果的な重要施策である。</b>  |
| 観光対策としての視点は記載のとおりですが、環境面での記載をしてください。二酸化炭素の約3割を排出する自動車からの排出抑制は重要です。1000台の削減効果を資産する必要があります。 |
| 積極的に実施することで、認知度が高まれば利用者の増大が見込まれる。   |
| 観光シーズンの渋滞回避は、観光地にとっては重要な施策であると思います。   |
| 中心市街地において観光シーズンに慢性的な渋滞を、奈良公園周辺で車の流入を減少させており、渋滞緩和に効果があった。                                  |
| <b>運輸部門の温室効果ガス削減は重要であり、交通渋滞の緩和や観光客誘致による地域活性化とも相まって、波及効果があると思われる。</b>                      |

| 点数 | 集約案  |
|----|--|
| 3  | 渋滞対策のみならず、運輸部門の温室効果ガス削減にもつながる重要施策であり、観光客誘致による地域活性化などの波及効果があると思われる。 |

| 効率性 意見の内容  |
|--|
| 社寺とも協力して、効率的利用にむけて議論する必要がある。   |
| <b>現在は既存の施設(市役所や高架下駐車場)を活用で、費用的には僅かしかかからず効果が上がれば最適な方法であるが、いろいろ課題があり大きな増加は難しいのではないのでしょうか。</b> |
| 部門評価と同じ  |
| <b>費用対効果を考えても、成果が見込まれる。</b>  |
| 自己評価通り   |
| <b>少額の費用で成果をあげていると思われる。</b>  |
| 他方、H24年度実績はH23年度実績からほぼ横ばいでH27年度目標の4割程度にとどまっている。  |

| 点数 | 集約案                        |
|----|----------------------------|
| 3  | 既存施設を有効に活用し、費用対効果は高いと思われる。 |

| 総合評価 意見の内容  |
|---|
| 住民、社寺、行政、住民の相互理解が、必要である。  |
| <b>重要な施策であるが駐車台数があまり増えていなく、市民(県外含め)への広報や誘導看板の配置増設のみならず、実施期間や公共機関との連携見直し、更には最適駐車場位置まで含め抜本的な対策が必要ではないか。</b> |
| 課題を明確にして解決策を決定して進捗管理をしてください。  |
| 交通渋滞の緩和や、CO2の削減だけでなく観光者へのメリットも大きい。  |
| 現在行っている美術館等の入場割引箇所の拡大、特に社寺等魅力ある箇所を増やす必要がある。   |
| 地道な取り組みが実施されていると思われる。他方、中期目標の達成に向けたロードマップの策定、県や各種団体との協議・連携なども含めた取り組みの強化が期待される。                            |

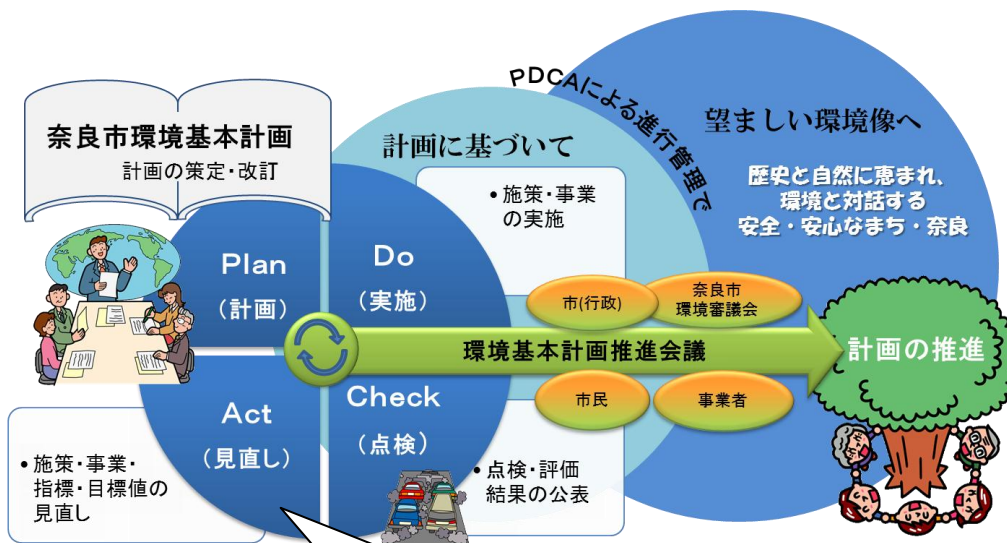
| 評価 | 集約案  |
|----|--|
| C  | 重要な施策であるが、駐車台数を増やすべく、広報やサービスの拡大、実施期間や公共機関との連携の見直しなど、さらなる施策が望まれる。 |

## PDCA イメージ

1. 担当課：前年度実績の自己評価
  2. 推進会議：自己評価を基に、施策を評価
  3. 審議会へ評価結果を報告・承認
- (Check)
4. 担当課へ推進会議評価結果の報告
  5. 担当課：結果を基に施策、計画の見直し (Act⇒Plan)
  6. 担当課：見直した計画に基づき施策を実施 (Do)

約 6 か月  
 推進会議 2 回開催  
 審議会 1 回開催

以上 1～6 の繰り返し



C⇒A へ

- ・ 推進会議の評価結果を各担当課に報告、施策展開の検討材料に（推進会議の存在意義、PDCAによる進行管理を職員に理解してもらう）
- ・ 26年実施の職員研修で環境への意識づけを通して促す

問題点

予算編成に反映できるタイミングでの PDCA サイクル運営

# 環境基本計画推進体制の評価について

資料5

委員氏名 井上雅由

|   |     |  |               |                        |                        |      |          |
|---|-----|--|---------------|------------------------|------------------------|------|----------|
| シートNo.                                      | 0   | 承認 奈良市長 審査 環境基本計画推進責任者 作成 推進会議事務局:環境政策課  |               |                        |                        |      |          |
| 指標  | 目標  | 環境マネジメントシステム(EMS)の考え方に基づき、PDCAサイクルの一連の手続に沿って実施します。また、計画の着実な推進を図るため、中心となる組織として「(仮称)環境基本計画推進会議」を設置し、市民、事業者、市(行政)、奈良市環境審議会の協働による計画の実施点検、そして施策や目標値等の見直しを毎年行っていきます。(環境基本計画より抜粋) |               |                        |                        |      |          |
|   |     | 25年度   | 25年度          | 26年度                   | 26年度                   | 27年度 | 27年度     |
|   |     | 4-9月   | 10-26年3月      | 4-9月                   | 10-27年3月               | 4-9月 | 10-28年3月 |
| EMSの考え方に基づきPDCAサイクルの運営体制を構築し運用する。           | 計画  | 環境基本計画推進会議の設置?   | 推進会議の開催?      | NA                     | NA                     | NA   | NA       |
|   | 実績  | 25年3月設置<br>開催4.9月  | 開催1.2月        |                        |                        |      |          |
| 「環境基本計画推進会議」にて、計画の実施点検、そして施策や目標値等の見直しを毎年行う。 | 計画  | ?  | ?             | 26年度後半の施策の見直し          | 26年度実績の27年度施策への反映      |      |          |
|   | 実績  | 23年度の<br>評価実施  | 24年度の<br>評価実施 |                        |                        |      |          |
| 施策や目標値等の見直し体制の確立、運営、維持。                     | 計画  |  |               | 当年度実績を次年度施策へ反映するシステム確立 | 当年度実績を次年度施策へ反映するシステム運営 | NA   | NA       |
|   | 実績  |  |               |                        |                        |      |          |
|   | 評価点 | コメント   |               |                        |                        |      |          |
| イ 達成度                                       | 2   | 「PDCAサイクルの運営体制を構築し運用する」は……<br>「環境基本計画推進会議」を2013年3月に設置して、2013年4月以降、23年度及び24年度の点検を関連各部門等の協力を得て当該年度の評価を実施することができた。<br>「施策や目標値等の見直し」に関しては各年度の点検結果を次年度の計画に反映させることはできなかった。       |               |                        |                        |      |          |
| ウ 波及効果                                      |     | 計画した波及効果?  |               |                        |                        |      |          |
| エ 効率性                                       |     | 計画した効率性?   |               |                        |                        |      |          |
| 総合評価  | D   | EMSの考え方に基づく運営体制はできたのか?その運営はできたのか?<br>「環境基本計画推進会議」にて、1、計画の実施点検、そして2、施策や目標値等の見直しを毎年行う。となっています。<br>運営体制「推進会議」を設置したが、前年度の評価実施のみで施策や目標値等の見直しを次年度計画に反映できず、反映する仕組みが確立していない。       |               |                        |                        |      |          |
| 課題  | 目標  | 「施策や目標値等の見直しを次年度計画に反映できず、反映する仕組みが確立すること。」が未達成となっている。   |               |                        |                        |      |          |

|    |                 |   |
|----|-----------------|---|
| 参考 | マネジメントシステムの審査では | 環境マネジメントシステムはシステムの構築と構築されたシステムを運用し汚染の予防と環境の継続的改善とマネジメントシステムの改善を要求しています。<br><br>環境基本計画ではシステムの改善まで言及していないとしても、「2、施策や目標値等の見直しを毎年行う」はシステムが確立していないので目標の未達成です。<br>早急に是正処置を実施することが求められます。<br><br>自己評価における目標の未達成を対策し、是正しているとPDCAサイクルが回っているので適合。 |
|----|-----------------|---|